

年頭挨拶(動画)の要旨

※2023年1月公開

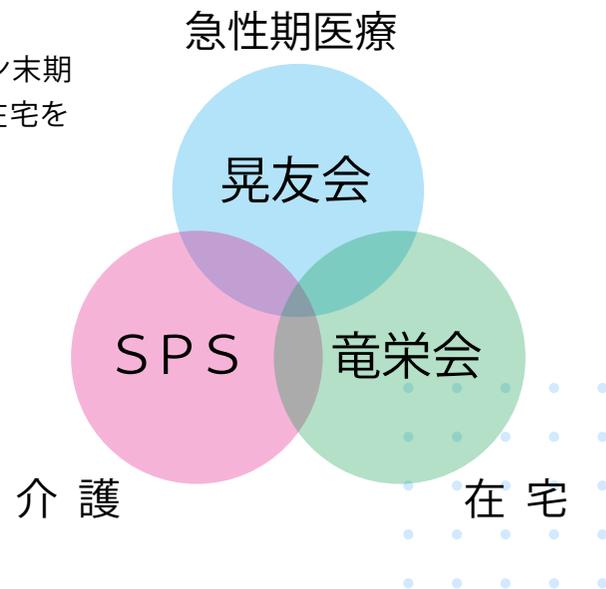


晃友会 理事長
山瀬 隆

新型コロナ感染拡大により厳しい時期もありましたが、昨年はかなり業績が回復しました。これもひとえに、皆さんの協力があったからこそと感謝しています。

- 日本では80%以上の方が医療機関で亡くなっていますが、この状況は考え直すべき時期。実際、厚労省も在宅診療で必要最低限の治療を行う方向に舵を切っており、晃友会でも3年前に在宅診療を開始しましたが、様々な患者に対応するには未だ不十分
→こうした状況を改善するため、昨年(2022年)に以下2つの取り組みに着手しました

- ① 新しく発足した在宅診療専門の
“医療法人社団竜栄会”をグループの一員に
晃友会の在宅診療は軽度・中等度の患者を、ガン末期などを含めた重症患者は竜栄会が担うことで、在宅を希望するすべてのニーズに応える体制を構築



年頭挨拶(動画)の要旨

② 法人内で専門に介護系施設を扱う会社として、株式会社SPSを新設

SPS管理の下、経済的負担を抑えた施設(サービス高齢者住宅型)で医療・介護・福祉のすべてを提供できる体制を整え、地域に貢献する

➔在宅医療や訪問看護・訪問介護・訪問リハを提供し、地域利用者の便宜を図れるよう、すべてのネットワークを網羅した新しい体制を構築

SPS

(Such a Peaceful Societyの略)

幸せを分かち合える
豊かな社会の実現

新体制を軌道に乗せるため、ご協力をお願いします。

同時に、この地域では対応可能な病院が少ない、脳神経外科、循環器の救急をメインの柱にして地域に貢献するため、皆さんと共に盛り上げていきたいと考えています。

「“良い病院”とは ～10年後を見据えて～」 (動画)の要旨

※2023年4月公開



晃友脳神経外科眼科病院
院長
山瀬 美紀

私が常々考えているのは、“良い病院”とは何かということです。
当然、それは人によって、また医師やスタッフによっても異なります。

しかし、“患者さんにとって良い病院”であることが大前提。

良い病院を実現させるためには、相手の立場に立って他人を思いやる心が必要です。
医療従事者というスペシャリストとして、スタッフ一人ひとりが患者さんの立場になって考えられるような心づもりであれば、自然と良い病院に、そして自ずと患者さんが集まってくることとなり、結果として経営的に必要な数字もついてきます。

こうした状況の実現が理想であり、私の目標です。

同時に、みなさんにとっての良い病院、組織づくりを私たちが実現しなくてはいけないと考えています。
経営的數字(売上げ)が大前提ですが、極力、皆さんの給与は担保していきたいと常々考えています。

そして“教育”。若い人材が育ちやすい環境を整えていくことも大切で、今後はその実現に力を入れていきたいと思っています。

2023年度はさらに前進したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

晃友会 今後のビジョン 2023年度～



晃友会 理事
(事業推進担当)
山瀬 亮

【ご挨拶】はじめまして。理事の山瀬亮です。10年ぶりに晃友会に戻ってまいりました。
“在宅医療の文化を変える”をスローガンに、日々邁進しております。
今後は以下に掲げた項目に尽力してまいりますので、皆様よろしく申し上げます。

1 急性期の拡大

脳神経外科、循環器の救急をメインの柱にして地域に貢献

2 (株)SPSによる介護事業の推進

在宅型有料老人ホーム×在宅医療×看護・介護・リハビリの提供を実現し、
経済的負担が少ない、安心して入居できる施設を提供することで地域に貢献いたします。

- ★ 医療依存度の高い患者の受入れを可能としたホスピス型施設を開設します
- ★ 介護度軽度の利用者を中心としたデイサービス併設型のサ高住を開設します

→ 来年春頃、座間市で新規事業スタート予定

3年以内にホスピス型200室、デイ併設型100室を目指します

3 病床増

- 晃友脳神経外科眼科病院において、46床増床予定(59床+46床=105床体制へ)
- 新規病院開設を目指します

4 特別養護老人ホーム開設を目指します

2023年度は在宅医療にも注力し、広範なネットワークを構築することで地域での存在感アップに尽力します。

従来の病院での医療のみならず、在宅における医療にもご理解、ご協力をお願いします。